

第2回 羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会 グループディスカッション

2015/07/10 201・202会議室

重点プロジェクト1「はむらに住もう・暮らそうプロジェクト～魅力ある街はむらブランドの創出」

グループ	議論内容	懇談会での発表(要約)
田嶋委員、伊藤委員、清水委員、小林委員	<p>&lt;住もう・暮らそう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イルミネーションはどうか</li> <li>・イルミネーションは秋口にやる。クリスマスでない時に人が来るのだろうか？クリスマスは競合するから、ならば正月の方が、秋だと雰囲気がない</li> <li>・どのぐらいの規模でやるのだろうか</li> <li>・1回限りではどうか。続けないとダメ</li> <li>・他でもやっている 特色がないと負ける</li> <li>・なぜイルミネーションか。意義づけは</li> <li>・ピンと来ない。他でもやっている。</li> <li>・中身が分からない</li> <li>・婚活と、どう絡むのか イメージがない</li> <li>・他とちがうことした方がいい</li> <li>・小さい町だから規模で負ける</li> <li>・駅前が便利だとい。飲食店、かわいい小物屋、スイーツ</li> <li>・羽村の人が集まれる店があるとい。少しずつ増えている。種を増やしていくことが大事だ。</li> <li>・水車小屋で遊びのイベントをしたら盛況だった。</li> <li>・東口と西口は遊びに来ない。交流がない</li> <li>・ちょびっとおしゃれな味つけが欲しい</li> <li>・昔ながらのもの生かし</li> <li>・年齢問わず遊べるのではないか</li> <li>・駐車場があれば、ウォークラリーができる</li> <li>・イベント時以外には</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域産業を活用した商業・観光振興事業及び若者が活躍する地域活性化事業の実施(イルミネーションを使った街のにぎわいづくり)」の実施時期は秋だと雰囲気が出ない。イルミネーションは他市でも実施しており、特色がなければ負ける。事業の意味づけが不明確。婚活と絡めるという具体的なイメージがわからない。他と違うことをやったほうがいい。</li> <li>・羽村市内でも工夫されたカフェや水車小屋を使った昔遊びのイベントなどがある。それらを活かし、よいタネを増やしていく。プラス若い女性が集まる要素を加えていくことが方向性のひとつではないか。</li> <li>・駐車場があれば、市内を歩いて回れるイベントにつなげていくことができる。</li> </ul>
大和田副会長、池田委員、高橋委員、山本(哲)委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を稼げる産業等を増やすことが一手だと思うが。</li> <li>・結婚後の家をあたえる等→羽村らしさを、全面的にPR。空き家がどれくらいあるのか。データが必要。</li> <li>・相続でうまくいかなかった物や建物を市が引き取る。</li> <li>・離乳食を提供するのではなく、自分でつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・羽村らしさを全面的にアピールするために、例えば転入者に家を丸ごとあげてはどうか。効果の高い政策を打ち出し、データベースを活用して建物や土地をしっかりと確認し、与えるためのもの(補助など)を市としてやればよい。</li> <li>・「安全でおいしい離乳食を提供するレストランに対する支援」→総合的に取り組むべき。</li> </ul>
勝山委員、寺島委員、渋谷委員、羽村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆今まで住んで良かったこと メリット</li> <li>・パリ・・・日が長い(アフターワークの時間がある)・アーティスティック→欧米のまちの特徴→「他とちがう」特徴を出す</li> <li>・京都・・・古い建物(風情)</li> <li>・五島列島・・・独特のふんいき 郷土愛</li> <li>・羽村・・・？ 青梅と福生の通りみち！？</li> <li>※羽村市はアパートが高い→「家賃の安さ」で売る？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで住んでよかったところ→①パリ：夏は日が長くアフターワークの時間を楽しめる。②京都：居住地近隣に飲食店が多くあり、若い人には魅力的。③五島列島：雰囲気や郷土愛が強く、魅力。</li> <li>・他と違うものを持たないと街の特徴は出ない。海外では「アート」が評価されていた。空き家をアトリエとして利用できないだろうか。</li> <li>・家賃助成などがあれば、若い人には魅力となる。</li> </ul>

第2回 羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会 グループディスカッション

2015/07/10 201・202会議室

重点プロジェクト1「はむらに住もう・暮らそうプロジェクト～魅力ある街はむらブランドの創出」

グループ	議論内容	懇談会での発表(要約)
岡委員、 山本(三)委 員、 宇津木委員、 折原委員	「はむらに住もう・暮らそうプロジェクト」 空店舗の活用 ・オーナーの協力や商工会の協力が必要 ・羽村に開業する為の東口駅商店街に駄菓子屋、レトロの居酒屋などがあるので、商店街に統一感を持たせる ・子ども達の力を活用は子育てのカテゴリに ・利益などを求めるのは、ハードルが高い ・街コンと住むが繋がらない	・「事業者向け店舗改修、空き店舗の活用助成金制度の導入」→商工会などの協力が必要。羽村市での開業者を呼びこめるとよい。 ・駅の東口周辺の商店街の空き店舗を活用し、同じような雰囲気店で揃える。 ・「子どもたちの力を活用した羽村ブランド品の開発及びアンテナショップ開設支援」→利益や人を呼ぶことを子ども達に任せるにはハードルが高い。重点プロジェクト2に該当するではないか。 ・「『婚活から始まる楽しい結婚生活をデザインする』みらい・デザイン・カフェの開設支援(街婚(まちコン))」→将来を見据え長い目で見た事業になることが大事。